東成区の昭和 やぶにらみ日記

絵と文：柳たかを

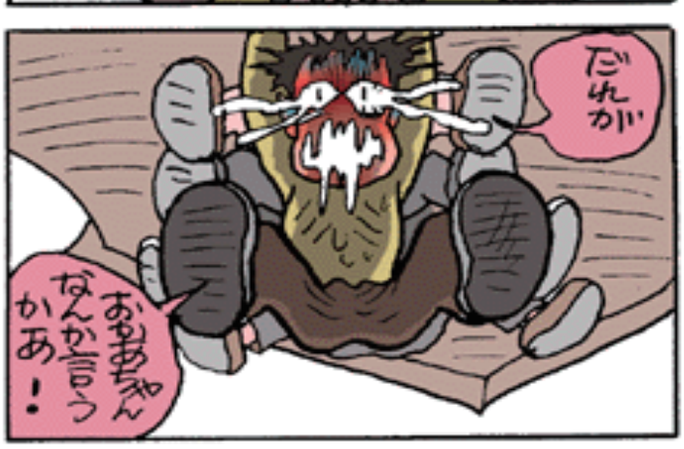
ヨッさんの思い出

　僕には兄が 2 人、姉が 1 人いる、次兄・ヨッさん (芳道・ヨシミチ) は昭和 16 年生まれで僕の 8 歳年上だ。
ヨッさんは手先が器用で好奇心旺盛、遊びのアイデアが豊富、幼児の僕には遊びの天才に思えた。
我が家は大阪東成区内の某交差点近く木造長屋がひしめく幸運にも空襲で焼けなかった地域、あたりは雨が降ると水溜りだらけになるデコボコ未舗装の道、草伸び放題の空き地があちこちにあった。
自宅近くの古い街道に沿って流れていた小川、初夏の夕方には小川沿いの柳並木のシルエットを背景にボォーッと青白い光を発し蛍が飛び交っていたのを覚えている。
昭和の高度経済成長以前で、この小川や別の用水路で鮒やドジョウ・ザリガニ・水性昆虫を普通に見れた。
都会にも小さな自然がまだまだ残っており、好奇心の塊のヨッさんのような少年には、遊びのネタに不自由する事はなかったと思う。
ヨッさんの使う遊び道具はバリエーション豊富、弟の僕には何に使うのか想像出来ない物も珍しくなかった。その一つが「とりもち」、釣竿に似た先端の細い竹竿の先に餅状の粘着物を巻きつけた物が「とりもち竿」、小動物や昆虫を捕獲するためのツールだ。
「さわったらあかんぜ、ベタベタくっついて取れんようになる」先端が玄関壁に接触しないよう立て掛け、興味津々でにじり寄る小さな弟に警告して去る。
我が幼い脳みそにも、不用意に触れると「あちこちベタベタくっつき」「取れんようになる」という修羅場が想像でき、両手を引っ込めたまま竹竿先端の餅状の異物を凝視した。
実際にとりもち竿での虫などの捕獲は見てないが、そのシーンを一人想像し興奮していた。
ヨッさんと 2 歳上の長男・タケやん (武彦・タケヒコ) は戦中生まれで、後年僕は母親から空襲の時に幼い 2 人の手を引き近くの公園に掘られた共同防空壕に命からがら転がり込んだ話を繰り返し聞かされた。
特にヨッさんは避難するよりも興味がある方に行ってしまうので、「握ったヨッさんの手は絶対離されへん」と母は思っていたそうだ。
小学校時代の毎夏、ヨッさんがはまっていたというトンボ釣り遊び「ホイラン」の話は、オスのオニヤンマがメスを求める神秘な恋の話に魅了され強く印象に残っている。
マンガを描く僕が「昭和の思い出遊び」をＨＰ連載していた時、話を思い出し、孫のいる次兄に改めて取材し直し、「東成区の昭和・ホイラン」として短編に描いた。
本誌に 7 回の短期連載で紹介をさせて頂いたものです。
オトリのメス (オニヤンマのメス・ラー) の胴体に括りつける長い糸や両端にオモリを繋ぎ、空に放り上げる捕獲器で糸がヨレて絡まないように木綿の糸ではなく、魚釣りのテグスを使ったこと、両端の 2 つのオモリには小石ではなく古い引戸の戸車から回収したベアリング (鉄球) が小さくてオニヤンマを驚かさないから良いなど、遊んだ経験者の話に引き込まれたものだ。
歳を重ねても童心いっぱいであちこち歴史探訪などに出かけていたと聞く。
2018 年の春、首にできた腫瘍で入院した時に「勧められても手術はせん 痛みおさえる処置だけしてもらってる」と見舞いに行った弟に笑顔で明るく言い、その 2 ヶ月後の朝自宅で眠るように逝った、77 歳。
ヨッさんの笑顔、わが記憶に刻み忘れないようにしたい。

記　2019 年 2 月

やぶにらみ日記

東成区の昭和(88)

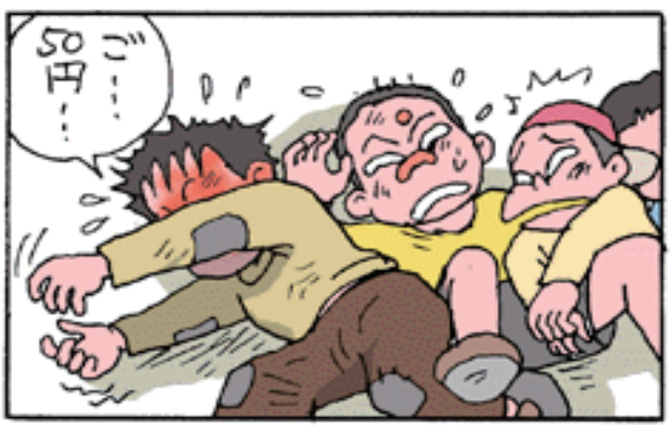


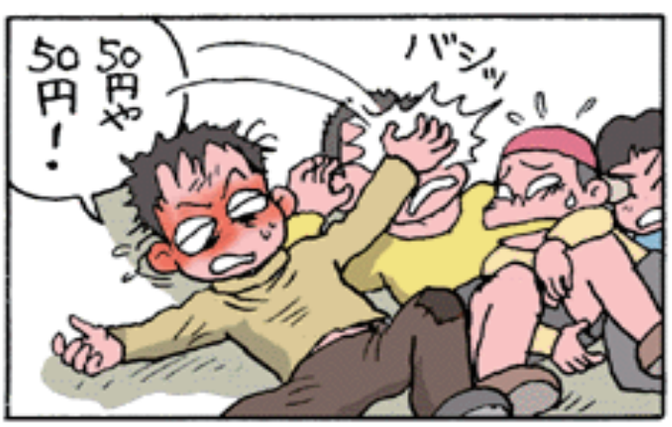
やぶにらみ日記

東成区の昭和(89)

やぶにらみ日記

東成区の昭和(90)





やぶにらみ日記

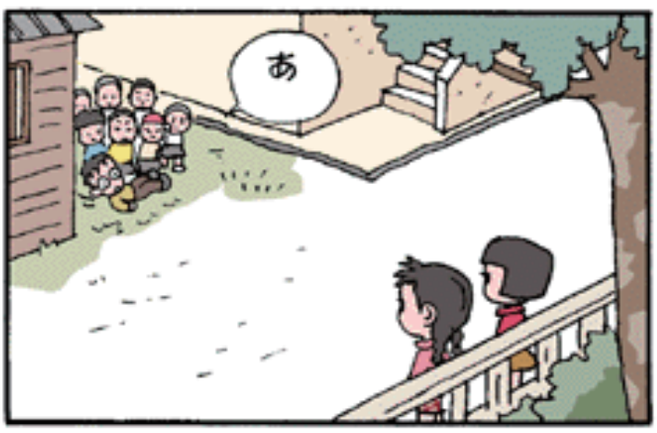
東成区の昭和(91)

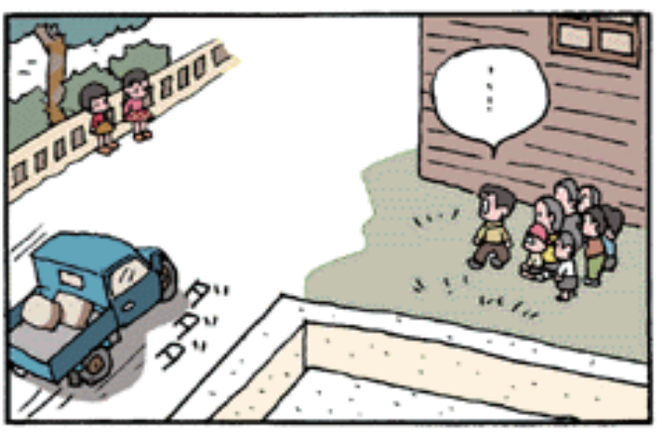
やぶにらみ日記

東成区の昭和(92)

やぶにらみ日記

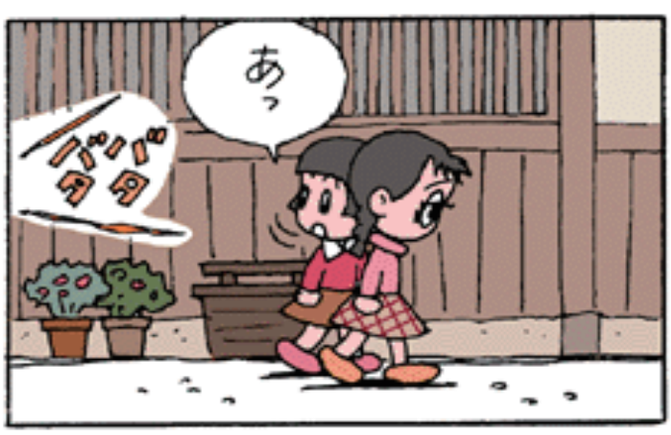
東成区の昭和(93)





やぶにらみ日記

東成区の昭和(94)

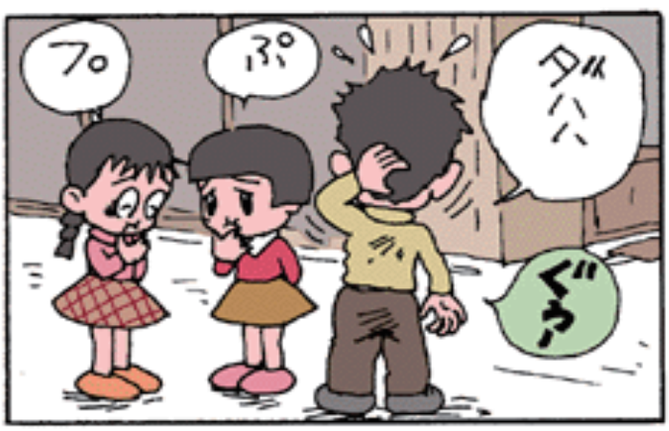


やぶにらみ日記

東成区の昭和(95)

やぶにらみ日記

東成区の昭和(96)



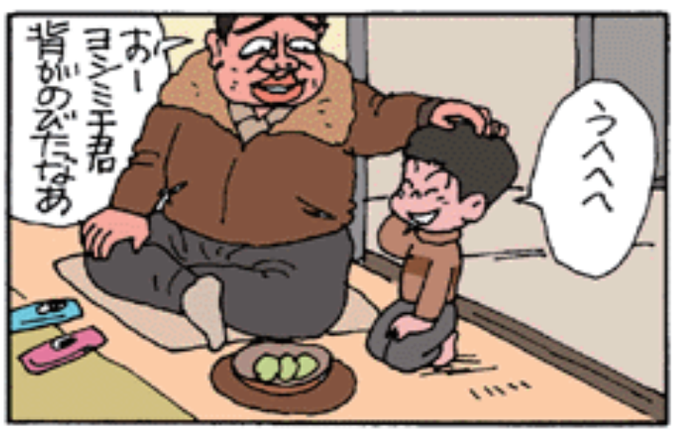
やぶにらみ日記

東成区の昭和(97)

やぶにらみ日記

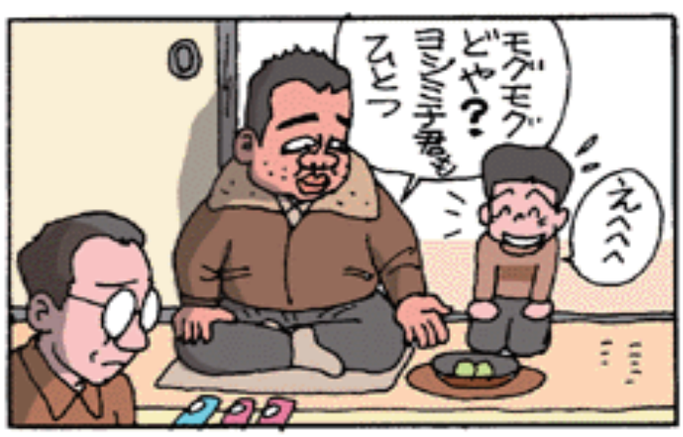
東成区の昭和(98)

東成区の昭和(99)



やぶにらみ日記

東成区の昭和(100)



やぶにらみ日記

東成区の昭和(101)